慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	初期耶蘇教徒編述日本語學書研究(ジヨルダン・ア・デ・フレイタス著, 岡本良知譯註, 日葡協會發行)
Sub Title	
Author	吉田, 小五郎(Yoshida, Kogoro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1929
Jtitle	史学 Vol.8, No.2 (1929. 8) ,p.149(315)- 150(316)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19290800-0149

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

書評

初期耶蘇教徒編述日本語學書研究

（ジョルダン・ア・デ・フレイタス著　岡本良知譯註　日葡協會發行）

先頃歸國せられた葡萄牙公使ジョゼ・ダ・コスタ・カルネイロ氏は日葡關係の歴史に多大の興味を寄せてゐられたさうである。日葡協會の事業の一として雜誌發行を計企し、その雜誌の一部をさいてこの方面の研究に委せられるといふ噂は、昨年十月中央公論に掲載された木下杢太郎氏の『南蠻隨筆』で知つた。雜誌の出たといふ話は未だ耳にせぬが、上記の本が今度日葡協會から發行せられた。

本書の標題『初期耶蘇教徒編述日本語學書研究』といふは、譯者岡本氏が便宜上付けられたものであつて、もと左記の外題を持つものである。

SUBSIDIOS PARA A BIBLIOGRAPHIA PORTUGUESA
Relativa ao estudo da Japonesa e para a Biographia de Fernão Mendes Pinto,
por Jordão A. de Freitas, official da Real Bibliotecа da Ajuda. Coimbra, Imprensa da Universidade. 1905.

（日本語研究に關するポルトガル語の文献、並にフエルナン・メンデス・ピント傳の補足）

著者ジョルダン・ア・デ・フレイタス氏は日本關係の未刊書を多數收藏せるポルトガル國アジュダ圖書館長の職にあつて、屈指の東洋學者であり、その研究の結果の發表せられたものも少くない。譯註者岡本良知氏は東京外國語學校葡萄牙科の出身にして、語學に堪能にて又日葡關係の歴史に造詣深く、之まで幾回か其道の飜譯論文（葡文から。書誌、思想などに發表せられた「日葡交通の起原」といふ著書もある）を發表せられ吾々を啓發せられた。

本書の原本は今より二十三年前、宛も日露戰爭に刺戟せられて世界の視聽が日本に注がれた當時、コインブラ大學の "Instituto" に連載せられ、後その拔書を合して一册としたものゝ由にて、內容は、吾が切支丹史上初期に屬する耶蘇教徒、パードレ、イルマン等の編述にかゝる文典八種、辭書九種（或ものは刊行せられ或るものは未刊）に就いての綿密なる研究にして、書志學の研究にたづさはる者、或は興味を寄する者にとつて、こよなき福音たるは云ふを待たないが、さもなき者にとつても亦得るところが多い。例へば初期の耶蘇教徒の布教の方法、教理を如何なる程度まで理解し居たるか考察する上に、之によつて與へられる暗示は大きい。而も、丹念なる忠實なる譯者岡本氏は原本の足註を程よきところに挿入せられて見易くし、且つ新に百十三項よりなる親切な譯註を施さられた。原著者の博引旁證は譯者を待つて愈々その眞價を發揮した。

譯者は更に附錄として『在葡未刊書一考』と題し、アジュダ圖書館、リスボン學士會文庫、リスボン國立圖書館、ポルトガル外務省文庫等に藏する貴重なる日本關係の未刊書に就いての抄譯論

文を添えられた。この未刊書はやがて日本の苑に移し植ゑられて然るべきものであつて、私はその實現の日の一日も早からんことを希念して已まぬものである。今この論文を讀むに當つて、私はその思を深められ、之が、必ずや移植實現に與つて力あるべきを信ずる者である。

本書は題言、譯者例言、譯者の作成せる原著者引用書目合せて十一頁、本文百五十二頁（菊版）の小篇ではあるが、その組方のぎつしりとつまつてゐる以上に豐富なる內容は、必ずしも讀み易いものではない。正直にいへば私如きは僅か之だけのものを讀むに實に數日を要したのである。之は著者譯者に對して非禮を述べんとするのではない、寧ろ正に之と正反對でそゞろにその勞をおもうていふのである。

せめて中に取扱はれてゐる書名を列擧する方が寧ろ、私のなくもがなの贅言に勝るとは思ふのであるが、長くなることを恐れて敢て割愛することにした。以上。（吉田小五郎）

廣西兩宮記（田中信謹著　芸香社發行）

數日前、關西の名社西宮神社の祠宣吉井太郎氏より廣西兩宮記を贈られた。同記は享保年間、西宮の人田中信謹（サネモリ）翁が、廣田・西宮兩社に關する衆說を抄錄し且つ自己の所說を附したもので、それに南宮神社に奉齋してあつた劔珠に付いての傳說見聞を記した劔珠說が附錄せられて一卷となつて居る。一見する周搜博覽の程が窺はれる。同記に於て注目すべきは、西宮記の條に於て、蛭兒尊とエビス神とを混同しきつて居た時代に、これを峻別した神社啓蒙と神祇拾遺との兩書の所說に讃辭を呈してゐる事である。同記の初稿は享保十二年翁の二十九歲の時に成り、其後、漸次補訂を加へられ明和元年翁六十六歲の時に、今次印行の重訂本が完成して居る。

本書は從來公刊せられず、たゞ鄕黨のみに傳寫繙讀せられたが、今次吉井氏等の手によつて甲麓摘芳第一輯として印行、學界に廣く紹介せられる事となつたのは敬賀すべきである。猶ほ、同記には、吉井氏の解題、著者傳、年譜、掃苔記及ひ貞享地圖竝同解說が附せられて居る。

近來鄕土史の研究の進展と共に鄕土先進の埋れたる遺書、遺業を顯彰する事實が多く見受けられるに至つたのは、正に愛鄕心の發露と見るべきであり、且つこれがその涵養に多大の效あるは言を俟たない。

終に、甲麓摘芳の今後埋れた良著を逐次收めて學界に其の芳姿清香を認めらるゝ事を希望して止まない。

（昭和四、七、一、武田勝藏）

朝鮮古歌謠集（孫晋泰編　刀江書院發行）

東洋文化の研究の諸事の中には半島同胞の研究に俟つべきものが少くない。今次、孫氏は朝鮮古典文學の第一たる古歌謠を國語で譯載した本書を公刊された事は學界の爲め敬謝すべきである。朝鮮語を解し得ない自分は本書を評するのは不可能な事ではある